

本日、御出席の皆様へ

2011年3月、農林水産省は食育の取組の一環として、
「マジごはん計画」を立ち上げます。

人にとって「食べる」ということは根源的な活動のひとつ。
「食べる」ことは自分たちが「生きる」ことにほかなりません。

21世紀を生きる私たちは、「食べる＝生きる」ということを
忘れてしまっていないでしょうか。
「食べる」ではなく「とりあえず食べとく」と思っていないでしょうか。

これまで、農林水産省は、
食料自給率をあげるために、農家のために「米を食べよう！」
健康であるために「バランスよく食べよう！」という運動をしてきました。

しかし、これらのことは「頭ではわかって」いながらも、なかなか行動に結びつきません。
だからこそ、自分から行動したくなるような本質的な呼びかけが必要だと思いました。

あなたの人生において、「ごはん」はどんな意味を持ちますか？

あなたにとって、マジな「ごはん」とはなんですか？

ちょっとゆっくりと「ごはん」を食べる。

友達や仕事仲間と楽しい話をしながら、とびきりおいしいものを食べる。

自分で料理をして、あの人と一緒に食べる。

そんな「食べることを少し前向きに」というきっかけを、私たちは創りたいと考えます。

自分の「ごはん」を考え直すことをきっかけに、

作るほうも、食べるほうも、売るほうも「マジ＝本気」な想いを伝える。

「売り手」「買い手」という関係だけではない、マジな繋がりをつくりたいのです。

私たちはマジな食生活、食におけるマジな繋がりを広げていくことを

「マジごはん」計画と名付けました。

農林水産省は、“お金”ではなく、“マジな気持ち”で、

みんなが考え行動できるように働きかけます。

来る3月5日、東京ガールズコレクションで「マジごはん計画」の宣言をします。

3月15日創刊のVogue Girlでは、「モデルと野菜のLOVEな関係」を特集します。

まずは若い人に、食に興味をもってもらいたい。

そして、この「マジごはん」計画を
商品として、キャンペーンとして、日本全体に広がる活動として、
今後どんどん広めていきたい。

例えば、月に1回、ゆっくりと時間をとってランチをしてみませんか？
きっと、食べることが、あなたの人生にとって幸せの素であることに気がつきます。

生産者はいつも食べる人のことを考えてものをつくっています。
そんな本気感が伝われば、日本の農業の付加価値があがっていきます。
その気持ちをみんなにわかりやすく伝えたい。
だから「マジ甘いにんじん」「マジピチピちな旬魚」「マジ丁寧に育てた豚」。

惣菜だってマジにつくってます。
ちょっとおながすいたとき、食べるものもちゃんと考えてほしい。
だから「マジきれいになるサラダ」「マジ米にこだわったおにぎり」。

本気感や食の楽しさを伝えて、うけとってもらおう。

本気で食べることや、食に関して考える機会を増やしていきたい。
それはみんなが考えて、新しいものをつくっていく運動体になっていくべきと考えます。
全国「マジごはん」選手権

「マジごはん」や、「マジ飲料」を集めたコーナーがスーパーや街にでて、
食に関して真剣に考える機会が増えていくことで、
食や農業の付加価値づくりや、地域の再生につながっていくと思っています。

お母さんもマジに料理してくれていた。
10年後、20年後に、食についてマジに考えられる社会人や親になってほしい。
「忙しいから」「年をとったから」と、食から逃げないで考えることが、
日本の未来につながります。

日本の豊かな食文化、誇りをもう一度国民全体で考えることで、日本を元気にしたい。
そしてそんなマジな日本の食を、世界に発信したい！

そういう考え方に共感してくださる仲間を、私たちは募集します。

「マジごはん」計画推進チームを代表して
農林水産大臣政務官

田名部 匡代